

第 24 回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会 議事録

日 時：平成 26 年 6 月 16 日（月） 13：55～16：55

場 所：日本薬学会長井記念館 1 階 B 会議室

出席者：別記 1

配布資料：別記 2

○報告事項

1. 平成 25 年度第Ⅲ期実務実習実施状況について

資料 1（平成 25 年度第Ⅲ期実務実習実施に関わる各地区の報告書）に基づき、1. 実習実施時のトラブルについて、2. 大学と施設の連携について、3. 実習に関する学生の意見、4. 実習に関する病院側の意見、5. 実習に関する薬局側の意見、6. Web による連携状況について、7. 評価実施について、8. 認定実務実習指導薬剤師と実習施設の一元的な把握体制の整備について（現状）、各地区調整機構より主に下記の報告があった。詳細は資料 1 を参照。

【北海道地区】

- ・学生のメンタル及び社会性、並びに実習への姿勢などの問題から、指導薬剤師と良好な関係を築けないうケースがあった。実習施設の関係者及び地区調整機構委員の迅速な対応により、実習を継続することが出来た。
- ・認定実務実習指導薬剤師と実習施設について、北海道地区調整機構受入施設登録システムで一元管理している。

【東北地区】

- ・学校薬剤師の業務見学で、給食室の立ち入り検査の同行の際、直前に学生の家族にノロウイルスの感染者がいたということを知り、急遽立ち入り検査を中止した。
- ・認定実務実習指導薬剤師と実習施設の把握について、実習施設との契約の際に各大学が個別に確認している。

【北陸地区】

- ・通学時、帰宅時に車の事故があり、自動車の所有・使用・管理に起因する損害は、大学で入っている保険（学研災・学研賠）の補償対象外であることを周知する必要があるがあった。
- ・病院では調剤実習は短くてよいのではないか。
- ・評価実施について、個人で解釈が異なるため、評価にずれが生じている印象がある。
- ・認定実務実習指導薬剤師と実習施設の把握について、北陸地区調整機構のホームページ開設に合わせ、標記情報を一元管理できるよう「北陸地区実務実習施設・指導薬剤師管理システム」の構築を開始した。今年度中の稼働開始を予定している。

【関東地区】

- ・自転車通学の際自転車どうしの事故により、通院を含めて数日、実習を休んだが指導薬剤師、大学、学生の話し合いにより、期間内に実習が完結できた。
- ・在宅医療に関する実習のため指導薬剤師の車に乗車する際、車のドアに右手を挟み右手親指骨折、全治4週間となる。学生本人がドアを閉める際の不注意。加入保険で対応した。
- ・薬局内の雰囲気が悪い（店長と指導薬剤師の仲が悪い、スタッフ間のいじめ、卸に対する高圧的態度など）
- ・薬局が忙しすぎて、ピッキングに明け暮れることが多かった。
- ・学生に積極性が無いことが指摘されている。
- ・認定実務実習指導薬剤師と実習施設の把握について、現在、暫定的、断片的な把握となっており一元的な把握ができていない。今後、新たなシステムの導入により実習施設情報とともに認定実務実習指導薬剤師の動向を把握するシステムを構築していく予定である。

【東海地区】

- ・網岡委員長欠席のため、文書による報告を参照

【近畿地区】

- ・大きなトラブルはなかった。
- ・1～8の項目について、今後検討の必要があるのではないか。

【中国・四国地区】

- ・「大雪注意報」が発令され積雪により交通網が乱れたことにより、欠席または遅刻の報告が大学に届き、降雪により学生の通学に影響が出た。大学の判断により公欠あるいは遅刻免除の対応についての通知文書を9時頃から各施設宛へFAXで送信したが通学時間帯とFAX送信の時間にタイムラグがあったため一部の施設で混乱が見られた。欠席分は残りの実習期間で調整してスケジュールを組み直した。
- ・実習2週目終了後の休日にスノーボードによる骨折。速やかに学生から施設及び大学に連絡があった。医師の診断から実習継続は不可能となり中止に至った。補講等では補えないため改めて次年度の1期に再実習となった。
- ・契約の際、ゼロックスのWebシステムを使用してほしいと強く言われる。調整機構からは、Webシステムか従来の日誌かは指導する先生の判断に任せたいとしている。
- ・認定指導薬剤師把握のための体制を構築しようとしている。

【九州・山口地区】

- ・学生：おおむね positive な意見が多かった。
- ・記入様式や方法が大学間で違うので統一して欲しいです。
- ・認定実務実習指導薬剤師と実習施設の把握について、各実習施設に所属する指導薬剤師の全体的把握は、病院実習施設については、地区調整機構が年度初めに調査し、把握している。また、薬局実習施設については、各県薬剤師会が調査し、把握している。

2. 監事監査報告

資料 2（平成 25 年度監事監査報告）に基づき、須田事務局長が監査意見を中心に報告した。

3. 平成 26 年度認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ実施計画

資料 3（平成 26 年度認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ実施計画一覧）に基づき、平成 26 年度は 41 回のワークショップ開催が予定されていると須田事務局長が報告した。

4. 広報用ポスターおよび受入施設証発行について

資料 4（平成 26 年度広報用ポスターおよび受入施設証発行について）に基づき、受入施設証は、病院 1,177 枚、薬局 6,041 枚、広報用ポスターは、A4 版 8,394 枚、A3 版 191 枚を発行したと須田事務局長が報告した。

5. 文部科学省委託事業について（平成 25 年度報告、平成 26 年度事業計画）

資料 5-1（文部科学省委託事業 平成 25 年度実施報告）と資料 5-2（文部科学省委託事業 平成 26 年度事業計画）に基づき、文部科学省大学における医療人養成推進等委託事業について、須田事務局長が平成 25 年度の業務結果と平成 26 年度の業務計画について説明した。

また、薬学教育実務実習改善のための全国ワークショップ 2014（仮称）は、11 月 5 日慶應義塾大学にて開催が決定したと須田事務局長が報告した。

6. 平成 25 年度実務実習実態調査結果

資料 8（平成 25 年度 私立薬科大学（薬学部）実務実習実態調査結果（「日本私立薬科大学協会」資料））に基づき、望月代表理事が説明した。また、項目 5. 実務実習についての問題点、改善要望について私立薬科大学協会から病院・薬局実務実習地区調整機構に、是正を求めてほしいとの要望があったと報告した。

○協議事項

1. 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習（改訂実務実習）への対応

資料 6（改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習への対応（「文部科学省 薬学実務実習に関する連絡会議」資料））に基づき、薬学実務実習に関する連絡会議のワーキンググループ会議のメンバーである伊東委員、永田委員、政田委員、文部科学省の丸岡氏から説明があり、協議が行われた。主に以下のような意見が出された。

- ・なぜ 4 期制か、また連続した期間で行う必要があるか、明確な説明が欲しい。
- ・地方だと連続して実習を行うことは難しいのではないか。（交通の事情などもあるため）
- ・やれるところからやってみてはどうか。
- ・期間をあけて学生が整理する時間を持つことも重要。連続でないことにも意味があるのではないか。
- ・雪国では 4 期制は難しいと思う。

- ・4期のパターンは色々と考えられるが、病院と薬局をグループ化しないと難しいのではないかな。
- ・実習を受け入れる施設数の確保が心配。
- ・調整機構としては、実習開始と終了が決まっていないと調整できない。
- ・4期制を実施している病院（近畿地区）に、メリット、デメリットを調査してはどうか。
- ・薬局と病院の連携がとても重要になる。
- ・5月～7月、8月～10月、11月～1月、2月～4月の4期制はどうか。
- ・実習を22週で行うことは決定事項か。期間を短縮し、1年間で4期が完結するのであれば可能ではないか。
- ・指導薬剤師を増やせば可能ではないか。
- ・ふるさと実習を行うためには、全国で3期制、4期制を統一する必要がある。

連続性についてどのように考えるか、4期制は機能するか、4期制の可能不可能について、問題点について、各地区調整機構は6月中旬に事務局へ意見を寄せることを決めた。

2. 平成27年度各地区におけるふるさと実習実施方法（確認）

資料7（平成26年度各地区におけるふるさと実習実施方法）に基づき、ふるさと実習の申込み方法について、各地区調整機構が説明した。

3. 認定実務実習指導薬剤師養成事業における問題点と改善について

資料9（認定実務実習指導薬剤師養成事業における問題点と改善策の提案）のとおり、日本薬剤師研修センターへ申し入れたこと、また議論が始まったことを望月代表理事が報告した。

4. 認定実務実習指導薬剤師と実習施設の一元的把握の整備

資料10（認定実務実習指導薬剤師認定制度実施要項（「日本薬剤師研修センター」資料）に基づき、経緯と現在の問題点等を須田事務局長が説明した。

以上

別記 1

第 24 回病院・薬局実務実習中央調整機構委員会出席者名簿

所属	出席者名 (敬称略)	出欠
北海道地区調整機構	宮本 篤	○
東北地区調整機構	富岡 佳久	○
北陸地区調整機構	中川 輝昭	○
関東地区調整機構	伊東 明彦	○
東海地区調整機構	網岡 克雄	欠
近畿地区調整機構	掛見 正郎	○
中国・四国地区調整機構	手嶋 大輔	○
	島田 憲一	○
九州・山口地区調整機構	原 千高	○
日本薬剤師会	生出 泉太郎	○
	永田 泰造	○
日本病院薬剤師会	幸田 幸直	欠
	政田 幹夫	○
薬学教育協議会	望月 正隆	○
	井村 伸正	欠
	須田 晃治	○

文部科学省高等教育局医学教育課	丸岡 充	○
	柴田 佳太	○
厚生労働省医薬食品局総務課		欠

オブザーバー

日本保険薬局協会政策調整部会	原 正朝	○
日本チェーンドラッグストア協会	小田 兵馬	欠

別記 2

配付資料

- 資料 1 : 平成 25 年度第Ⅲ期実務実習に関わる各地区の報告書
- 資料 2 : 平成 25 年度監事監査報告
- 資料 3 : 平成 26 年度認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ実施計画一覧
- 資料 4 : 平成 26 年度広報用ポスターおよび受入施設証発行について
- 資料 5-1 : 文部科学省委託事業 平成 25 年度実施報告
- 資料 5-2 : 文部科学省委託事業 平成 26 年度事業計画
- 資料 6 : 改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習への対応
(「文部科学省 薬学実務実習に関する連絡会議」資料)
- 資料 7 : 平成 26 年度各地区におけるふるさと実習実施方法
- 資料 8 : 平成 25 年度 私立薬科大学(薬学部)実務実習実態調査結果
(「日本私立薬科大学協会」資料)
- 資料 9 : 認定実務実習指導薬剤師養成事業における問題点と改善策の提案
- 資料 10 : 認定実務実習指導薬剤師認定制度実施要項
(「日本薬剤師研修センター」資料)